

Title	石油産業に於ける経営戦略についての一考察
Sub Title	
Author	上野清和(Ueno, Kiyokazu) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第739号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0739">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0739</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 上野 清和  
(ゼネラル石油株式会社)

主査 青井 倫一  
副査 藤枝 省人  
奥村 昭博

所属 青井 倫一 研究室

## 石油産業に於ける経営戦略についての一考察

日本経済は、低廉且つ安定的なエネルギー源である石油供給の上に大きな成長を遂げた。中東の政情不安、地球規模での環境問題等石油を取り巻く環境は極めて不透明であるが、天然資源に乏しい日本は、長期的にみてもそのエネルギーのかなりの部分を原油の輸入に頼らざるを得ない。一方、国内石油産業を見るとその体質は脆弱であり、その石油産業の存在意義であり目標でもある「エネルギーの安定供給」が将来にわたって維持されるかどうかとも危うい。本研究では、この国内石油産業に対して産業組織分析を行い、先ず石油産業の制約や可能性等を明らかにし、あるべき石油産業政策を明らかにする。更に、その枠組みの中で、各企業がどの様な経営戦略を取るべきであり、又取り得るのかを探る。

本研究の結論を以下に示す。

1. 石油産業はその特殊性に依って、市場原理の極めて効きにくい産業であり、現在の脆弱な産業体質はある意味では必然である。
2. 現在の状況を維持することは大きな外部不経済をもたらし、社会的損失を招く。経営の効率を高めるような産業政策が求められる。
3. 社会的損失を論じる際の社会とは日本ではなく、世界・地球規模の視点を持つことが必要である。
4. このような産業政策の枠の中では各企業の経営戦略は極めて制限されたものになる。しかし、各企業が経営努力を行うことは産業政策の枠の中とはいえ、極めて重要である。本論文の提言では、各企業の利益水準そのものは改善はされないが、社会的共通資源の配分は改善されることになる。